



本寺如来堂の内陣（御前立三尊佛）

一光三尊佛の由来

一光三尊佛というのは、一つの光背に中尊として阿弥陀如来像が、その脇侍仏として向かって右に観音菩薩像と左に勢至菩薩像がお立ちなので一光三尊と申し上げています。聖人は毎日この尊像を礼拝され、念仏弘法に精進されました。今日においては、聖人直拝の御本尊は、この一光三尊佛のみであります。

親鸞聖人と専修寺

親鸞聖人は関東各地を御教化中の嘉禄元年(1225)栃木県芳賀郡二宮町高田の地に一字を建立し、専修念仏の道場とせられました。御本尊は、夢のお告げによって長野県の善光寺からお迎えしたと伝えられる一光三尊佛であります。親鸞聖人は、その後京都へ帰られました。真佛上人、顕智上人を始めとする門弟が、ここを中心に教団を發展させ、「高田門徒」と呼ばれるようになりました。また、「専修念仏」専ら念仏を修するとの意味から、寺号を「専修寺」と称することになりました。津市一身田の専修寺は、東海、北陸方面に教化を広められた第10世真慧上人が、伊勢地方の中心寺院として建てられたのですが、栃木県の専修寺が兵火によって焼失したため、一身田が本山となりました。これに伴って、国宝の三帖和讃をはじめ自筆消息など親鸞聖人の御真筆類も、一身田の専修寺に移され、今も大切に伝承されています。このことは、本山専修寺が真宗の正当を示すものとして教団の誇りとなっています。

行事の流れ



旧慈光院跡から興行列により一路本山へと向かう。

釘貫門から山門へ。

境内へご到着。

御影堂において到着時のおつとめ

如来堂における一光三尊佛絵伝の絵解き。